

## 4 中学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

### (1) 国 語

#### ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
話・聞：話す能力・聞く能力
書 く：書く能力
読 む：読む能力
言 語：言語についての知識・理解・技能

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領 の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の 観 点	設定通過率 (%)	通過率 (%)
A 話すこと・聞くこと(1) 1年エ	1	一 話の内容(テーマ)を聞き取ることができる。		話・聞	80.0	70.0
A 話すこと・聞くこと(1) 2年エ		二 話の論理的な構成や展開などに注意して聞くことができる。		話・聞	55.0	94.8
A 話すこと・聞くこと(1) 2年ウ		三 目的や状況に応じて資料を効果的に活用することができる。	◇	話・聞	40.0	27.6
伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項(1) 1年ウ(ア)(イ) 2年ウ(ア)(イ)	2	一 (1) 文脈の中で漢字〔寄(よ)せる〕を正しく読むことができる。		言語	80.0	99.6
		(2) 文脈の中で漢字〔操作(そうさ)〕を正しく読むことができる。		言語	70.0	96.4
		(3) 文脈の中で漢字〔屋外(おくがい)〕を正しく読むことができる。		言語	40.0	60.2
	(1) 文脈の中で漢字〔イサン(遺産)〕を正しく書くことができる。	二	言語	45.0	79.5	
	(2) 文脈の中で漢字〔ノ(延)ばす〕を正しく書くことができる。	二	言語	60.0	70.3	
	(3) 文脈の中で漢字〔オウフク(往復)〕を正しく書くことができる。	二	言語	50.0	77.6	
伝統的な言語文化に関する 事項(1) 1年ア(ア)	3	一 歴史的かなづかい〔すゑて〕を現代かなづかい〔すえて〕に直すことができる。		言語	65.0	58.7
C 読むこと(1) 1年ア		二 「かきすきみて」の意味を【現代語訳】から見付けることができる。		読む	80.0	94.9
C 読むこと(1) 2年ア	4	一 文章の展開や登場人物の心情を表す語句などに注意して読み、内容を理解することができる。		読む	80.0	89.3
C 読むこと(1) 1年ウ 2年ウ		二 登場人物の心情を読み取り、自分の思いや考えが伝わるように音読を工夫することができる。	◇	読む	40.0	35.0
C 読むこと(1) 1年ウ		三 登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解することができる。		読む	50.0	48.0
C 読むこと(1) 2年ウ		四 文章の表現の仕方について、自分の考えをまとめることができる。	◇	読む	45.0	35.6
C 読むこと(1) 1年イ	5	一 段落の相互関係を正しく押さえて読むことができる。		読む	65.0	71.0
C 読むこと(1) 2年ア (伝統的な言語文化に関する 事項(1) 2年イ(イ))		二 抽象的な語句に注意して読むことができる。 (対義語について理解し、使うことができる。)		読む	45.0	39.0
C 読むこと(1) 1年オ 2年エ		三 書き手のものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができる。	◇	読む	40.0	42.9
B 書くこと(2) 1年イ、ウ	6	伝えたい事柄について、図を活用して文章を書くことができる。	◇	書く	65.0	62.9

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内				
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡	
1	一	話のテーマ（内容）	80.0	71.2	71.8	62.0	64.2	54.9	72.0	70.1
	二	説明の工夫の選択	55.0	95.2	95.1	97.1	96.6	96.5	95.5	97.3
	三	資料の選択と選んだ理由	40.0	26.4	26.1	31.0	24.4	20.5	22.8	29.5
2	一	(1) 〔寄（よ）せる〕の読み方	80.0	99.7	99.7	99.4	99.7	99.5	100.0	99.8
		(2) 〔操作（そうさ）する〕の読み方	70.0	96.7	96.7	97.1	97.1	96.5	96.9	97.9
		(3) 〔屋外（おくがい）〕の読み方	40.0	65.0	65.6	56.7	52.9	55.4	51.6	50.9
	二	(1) 〔イサン（遺産）〕の書き方	45.0	85.3	84.9	91.2	78.9	82.5	74.4	77.5
		(2) 〔ノ（延）ばす〕の書き方	60.0	72.2	72.3	71.9	74.9	72.2	67.5	81.9
		(3) 〔オウフク（往復）〕の書き方	50.0	82.3	82.3	83.6	75.6	80.9	67.5	74.4
3	一	〔すゑて〕の現代かなづかい	65.0	61.8	62.1	57.3	51.8	57.0	58.5	42.4
	二	〔かきすすみて〕の意味の抜き出し	80.0	94.8	94.7	95.9	96.1	95.9	96.9	95.8
4	一	文章の展開や登場人物などの描写に即した内容理解	80.0	90.2	90.2	88.9	90.0	88.8	90.7	90.9
	二	心情や描写の読み取りを根拠とした音読の工夫	40.0	35.1	35.1	33.9	35.1	31.0	34.3	40.1
	三	文章の展開や登場人物などの描写に即した内容理解	50.0	49.5	49.5	49.7	45.9	42.1	50.9	47.2
	四	文章の表現の仕方についての自分の考えの形成	45.0	39.7	40.0	36.3	34.0	29.4	38.8	36.4
5	一	段落相互関係の把握	65.0	72.8	73.0	70.2	68.2	71.9	69.2	63.6
	二	文脈における抽象的な語句（対義語）の理解	45.0	38.1	38.8	28.1	39.2	37.5	43.3	38.7
	三	書き手の考え方に関連付けた自分の考えの形成	40.0	48.1	47.5	56.7	37.9	34.0	39.1	41.4
6		資料活用を図る願いの文の作成	65.0	62.5	62.2	66.7	57.2	54.0	63.3	57.2
教 科 全 体			57.6	67.7	67.8	67.0	64.2	63.2	64.9	64.9

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
66.6	67.2	78.1	58.9	59.2	69.1	77.2	66.1	64.2	72.5	76.4	60.1	74.5	74.0	76.3	70.0
93.1	93.1	94.5	92.1	92.6	94.4	95.1	94.3	93.8	93.5	94.5	90.5	95.6	95.8	95.2	94.8
24.7	19.5	49.0	24.5	23.9	27.3	29.7	25.1	26.5	28.2	24.2	41.1	32.8	32.5	33.8	27.6
99.6	99.6	100.0	99.3	99.3	99.4	99.7	98.8	99.5	99.9	99.8	100.0	99.5	99.5	99.3	99.6
96.3	96.3	97.7	96.0	95.2	95.5	96.8	94.8	94.9	96.5	97.0	94.6	96.3	96.8	94.4	96.4
56.2	52.5	79.7	46.7	58.5	59.9	61.9	64.6	56.2	59.9	64.4	45.2	62.6	64.6	55.5	60.2
73.5	69.1	81.0	78.8	81.3	73.8	76.6	74.7	71.2	85.8	86.2	84.5	81.4	82.1	79.0	79.5
69.6	67.1	73.9	69.2	77.9	62.9	65.0	57.5	63.9	71.4	71.2	72.0	71.6	72.4	68.9	70.3
70.7	71.3	84.5	55.0	69.9	78.9	74.6	83.0	80.3	65.1	66.4	60.7	81.6	81.3	82.8	77.6
58.9	55.4	75.2	64.2	51.8	58.7	60.0	62.9	55.6	60.4	61.3	57.7	58.6	57.4	63.1	58.7
95.2	95.1	96.8	92.7	96.7	95.1	96.5	94.3	94.4	91.8	92.6	89.3	94.9	94.8	95.2	94.9
88.2	88.3	91.3	88.4	84.2	89.7	91.6	90.4	87.8	86.9	88.2	82.7	89.2	89.7	87.6	89.3
31.2	31.0	39.0	25.2	29.8	38.0	45.2	30.0	36.0	34.9	38.9	22.0	36.0	35.7	36.9	35.0
48.2	45.4	60.3	42.7	54.8	46.2	45.6	47.2	46.2	48.3	49.1	45.8	48.6	46.6	56.1	48.0
32.9	31.8	49.7	24.5	28.3	36.8	42.6	36.4	32.5	36.3	38.9	28.0	33.4	31.7	39.6	35.6
69.5	69.5	74.5	67.5	66.5	71.2	73.0	68.8	71.0	66.5	68.1	61.3	72.8	73.8	69.0	71.0
38.7	41.3	39.7	33.8	29.8	38.1	39.2	39.3	36.7	34.4	34.5	33.9	42.0	43.1	37.9	39.0
38.7	36.6	53.2	34.1	38.2	39.7	46.2	31.4	38.3	33.7	30.1	45.2	48.2	49.1	45.2	42.9
59.9	56.9	81.0	55.0	57.0	59.7	60.0	58.7	59.9	65.5	66.1	63.7	70.0	70.8	67.1	62.9
63.8	62.5	73.6	60.5	62.9	65.0	67.2	64.1	63.6	64.8	65.7	62.0	67.9	68.0	67.5	66.0

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題 (9問)	通過率の低かった 問題 (9問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	1二	1三	64.1	58.3
書くこと	1		6	62.9	65.0
読むこと	8	3二、4一、 5一	4二・三・四、 5二・三	57.0	55.6
伝統的な言語 文化と国語の 特質に関する 事項	7	2一(1)・(2)、 2二(1)・(2)・(3)	2一(3)、3一	77.5	58.6

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題 (9問)	通過率の低かった 問題 (9問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す能力・ 聞く能力	3	1二	1三	64.1	58.3
書く能力	1		6	62.9	65.0
読む能力	8	3二、4一、 5一	4二・三・四、 5二・三	57.0	55.6
言語事項	7	2一(1)・(2)、 2二(1)・(2)・(3)	2一(3)、3一	77.5	58.6

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率 (%)	主な誤答(無答を含む)例 (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)
1 三	27.6	40.0	説明の仕方に触れていない (29.0)、資料を選んだ理由が明確でない (23.5)、「選んだ資料」と「選んだ理由」との整合性が図られていない (18.0)、無答 (4.0)
3 一	58.7	65.0	現代語訳をした (19.5)、「い」と直す (12.5)、「ぬ、ん、る、う」と直す (3.5)、無答 (2.5)
4 二	35.0	40.0	あ 「うれしい気持ちを込めて」「思い出したように」など理由を書いていないもの (24.0)、「お礼を言っているので」など会話文そのものを理由としているもの (6.5)
			い 「気持ちを込めて」「その人になりきって」など音読の工夫が具体的でないもの (23.5)
4 三	48.0	50.0	「大声で叫ぶようになったので」等 (14.5)、「雷の怖さを克服したので」等 (8.5)、無答 (7.5)、「贈り物の空気を吸って」等 (5.5)、字数不足 (5.0)、「得意なこともあると気付いたので」等 (2.5)
	35.6	45.0	無答 (19.0)、「行動や情景を表す」等 (15.0)、「強調する」等 (6.0)、「体言止め、倒置法」等 (3.0)
5 二	39.0	45.0	「簡単」(18.0)、「不便」(16.0)、無答(8.0)、「面倒」(4.0)、「複雑」(2.0)
5 三	42.9	40.0	考えが具体的ではない (19.0)、無答 (15.5)、筆者の意見を取り上げていない (12.5)、文意が通じない (9.0)、指定段落以外の筆者の意見 (5.5)

- 誤答の原因として、**3**一では「現代かなづかい」ではなく「現代語訳」を記入した解答の誤答が多かったことから、基礎的・基本的な事項である「歴史的かなづかい」の学習内容が十分定着していないことが考えられる。
- 誤答の原因として、**1**三、**4**二・三・四、**5**二・三では無答や問いの条件に合わない誤答が多かったことから、問われていることそのものの意味や答え方が分からなかったことが考えられる。これは、ここ数年間における「活用」に関する問題に共通して見られていた課題と一致している。

## カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、「話すこと・聞くこと」においては、目的や状況、相手に応じて資料等を活用し分かりやすく話す力の向上が挙げられる。また、「書くこと」においては、ねらいとする「伝えたい事柄について、図を活用して文章を書く能力」を問う以前に、与えられた条件が守られていないために誤答となっており、条件に合致させて書く力の向上が挙げられる。さらに、「読むこと」においては、特に説明的な文章において、本文と関連付けて自分の考えをまとめていく力の向上が挙げられる。

今後の指導については、「話すこと・聞くこと」においては、目的に応じて適切な資料を選択したり、相手に応じて資料を使い分けたりできるよう、主体的に話す力を一層高めることが大切である。

また、「書くこと」においては、条件をきちんと守って書けるようにした上で、社会生活で生きてはたらく書く能力を身に付けさせるために、単元を貫く課題解決的な学習を通して、目的や意図相手を意識して、資料を適切に引用しながら説得力のある文章を書かせるようにすることが重要である。

さらに、「読むこと」では、段落ごとにただ平板に読み進めるのではなく、主体的な読み手を育てるために、心に引っかかった内容について自分の考えを合わせてまとめていくといった具体的な取組が大事である。

### 指導例

#### 「話すこと・聞くこと」：評価規準の設定例

本調査を分析していく中で、課題であると思われるものの中に評価規準の在り方がある。この規準の設定の方法について以下述べていく。

国語の授業づくりにおいては、1単位時間で「期待する生徒の姿」(＝教師が授業に臨むとき、生徒にこのような反応が望ましいということ)を明らかにするなど、学習評価の計画を明確化することが大切である。その際、単元の指導においては、言語活動を設定し、指導事項を指導するとともに、評価規準をより具体的に設定することが必要である。

なお、その時、確かな国語の力を生徒に付けさせていくための評価について、次の事項について留意したい。

- ①評価規準：付きたい力に対応して焦点化を図る。
- ②評価時期：いつ評価するのかを明らかにする。
- ③評価方法：どんな方法で評価するのかを明らかにする。

④努力を要する状況の生徒への手立て：どのように支援するのかを明確にする。

上記①～④が確実に具体化されているかどうかを再度確認しながら授業実践を行うことが大切である。

以下は、2学年「話すこと・聞くこと」の指導事項ウにおける、「資料を活用して、『言葉の使い分け』に関して調べたことを説明する言語活動」を通して指導する際の評価規準の設定例である。

時間	言語活動 評価規準に盛り込むべき事項	資料を活用して、「言葉の使い分けについて」調べたことを説明する。
3	<p>目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話している。</p> <p>(第2学年「A 話すこと・聞くこと」ウ)</p>	<p>○評価規準： 「言葉の使い分け」に関して、聞き手を意識し、分かりやすく説明できるよう要点をまとめ、効果的な資料や図などを選んでいく。</p> <p>○評価方法：ワークシート、資料選択</p> <p>※努力を要する状況と判断した生徒への手立て 説明の仕方や要点のまとめ方についてモデルを示し、資料や図などの特徴や効果などについて考えるよう促す。</p>

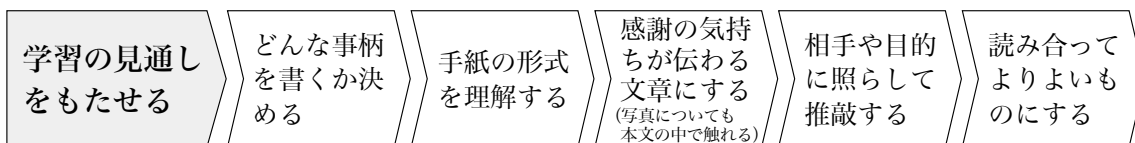
このように評価規準をより具体的に設定することにより、「分かりやすい説明」の仕方を例示したり、「効果的な資料や図」の特徴等を捉えさせたりする指導の具体化を図ることが大切である。また、評価方法や、努力を要する状況と判断した生徒への手立ての具体化・明確化を図り、授業を組み立てることが必要である。

## 指導例

### 単元を貫く言語活動の例

～単元名「職場体験でお世話になった方に、写真を添えてお礼の手紙を書こう」～

#### 【主な学習活動】



#### ポイント

- 単元の始めにおいて、単元の全体構想及びどのようなゴール（学習成果）を目指すのかを教師と生徒が共有することが大切である。その際には、教師が実際に言語活動を体験し、モデルを作成して提示することで、生徒により明確なゴールを示し、つまづきを予想することができる。
- その言語活動が社会生活のどのような場面で必要になるのか（必要感）、何のために（目的意識）、誰に向かって（相手意識）なされるのかをはっきり示し、生徒が主体的に取り組める課題を設定するとともに、「目的や意図に応じて書く能力」を養う。
- その言語活動を支える文章の形態、構成、話型、使用語彙などをはっきり示し、生徒が自力解決できるようにするとともに、努力を要する生徒への手立てを具体化する。

## 指導例

### 説明的な文章を読み、自分の考えを形成する指導

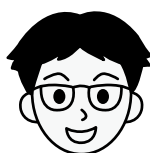
～題材名「説明的な文章をもとに自分の考えを発信するー筆者の考えを主体的に読むー」～

#### 【主な学習活動】

- 1 「共感」「疑問」「批判」の部分に、色別の線を引きながら読み進める。
- 2 最後まで読んだ上で、最も心に残った（＝「共感」「疑問」「批判」等）筆者の考えについて焦点化する。（「事実」の部分ではないことを確認する。）
- 3 筆者の「考え」の部分は、短かければ「引用」するが、長ければ「要約」する。（引用の場合は「 」を適宜使う指導をする。）
- 4 自分の考えも含めて、上記3と一緒にひとまとまりの文章にしていく。



自分が疑問に思った部分に線を引いたけど、それについての自分の考えを含めてひとまとまりにしていくって、どう書けばいいのかなあ。



筆者の意見の部分が短いのなら「 」で引用して、「～の部分に疑問を持ちました」と続けたらどう？その後2文目で、自分の考えを具体的に書いていけばどうだろう？

- 5 上記4でまとめた文章をペアで話し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

「活用」に関する問題についての課題としては、聞いたり読んだりして得た知識・理解を効果的に活用して話したり書いたりする能力の向上が挙げられる。

今後の指導においては、次の指導例等を参考にしながら、これまでの学習で身に付けた、国語の力を活用する場面の授業の中での位置付けを、より一層充実させる必要がある。

## 指導例

### 根拠（文章の解釈）に基づいた朗読の仕方の指導

～単元名「古文（平家物語）の朗読発表会をしよう」（第2学年）～

#### 【単元の指導の流れ】

##### <第一次>

- 1 作品の背景や内容の理解を助ける絵や写真、映像・音声資料を効果的に使い、古典の世界への関心が高まるよう工夫しながら作品の概要を解説する。
- 2 単元の学習課題「古文の朗読発表会をしよう」を設定する。
- 3 教科書掲載の平家物語の原文を、教師の範読に合わせて朗読させる。（既習の朗読の活動を振り返らせ、声の強弱、抑揚、速度、間、リズムにも目を向けさせる。）

##### <第二次>

- 1 教科書掲載以外の複数の場面の原文を現代語訳とともに生徒に提示し、自分の読みたい部分を決めさせ、朗読の工夫を考えさせる。
- 2 学級内で朗読発表会を行う。（読む前に、場面のあらすじやその場面を選んだ理由も説明させるなどの工夫をする。また発表後には、表現を工夫した部分とその理由を話させ、工夫の意図が伝わったかどうかを中心に感想を交流させる。）

## <第二次1の指導例> 「朗読の工夫を考える」

### 【主な学習活動】

- 1 特に工夫して読みたい部分に線を引きながら、平家物語を読み進める。(現代語訳を活用してもよい。)
- 2 線を引いたら、具体的な朗読の工夫を書き込む。( **ポイント1** を参照すること。)
- 3 叙述内容や表現技法等の根拠を確認しながら、個人で朗読の練習をする。
- 4 ペアや小グループを活用して、「なぜそのように朗読するのか」を話し合う。  
(朗読はあくまでも言語活動なので相互評価等をさせず、根拠の明確さに焦点を絞って話し合うように指導する。)

### ポイント1

朗読の工夫は、「力強い声で一語一語かみしめて」、「対句表現を意識してテンポよく」など、具体的な言葉で書かせる。また、なぜそう読むのか根拠を意識させることも重要である。

### ポイント2

支援の手立てとして、音読表現の工夫を表す語彙一覧(右例)を提示するなどして、活用させることも重要である。

☆「みんなに使ってほしい素敵な言葉」☆  
～「音読・朗読の工夫」(例)～

- |                                      |                                       |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 静かに消えゆくように  | <input type="checkbox"/> 間髪空けずテンポよく   |
| <input type="checkbox"/> ゆっくりと間をとって  | <input type="checkbox"/> むせぶように声を震わせて |
| <input type="checkbox"/> 甲高い声で       | <input type="checkbox"/> 明るいトーンで元気よく  |
| <input type="checkbox"/> 踊るようにリズムカルに | <b>使った言葉にチェック!</b>                    |

## キ まとめ

内容・領域及び評価の観点からみた学習状況は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」及び「言語事項」において、おおむね良好である。しかし、「読むこと」においては、文脈的な意味から対義語を考えるという、応用的な思考が十分とは言えない。

今後は、基礎的・基本的な漢字の習得に留まらず、習得した漢字が実際の文章の中で、どのように使われているかを理解させたり、折に触れて自分の話や文章の中で適切に使用させたりする授業を行うようにしたい。

「活用」に関する問題については、不十分な点が認められる。特に「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3つの領域ともに、主体的に理解して表現する力を向上させる必要がある。

今後は、「単元を貫く課題解決的な学習」を通して、相手意識や目的意識をもたせながら自分の考えを表現する時間を確保した授業を行うようにしたい。